



あこう通信

「今日も楽しかった。明日も楽しみ。」と思える学校を創ろう

～いい顔 いい声 いい心～



発行：令和7年11月12日（水）NO.23 文責：副校長 津田 幸一

<http://www.nagasaki-city.ed.jp/kosakaki-e/index.html> （2次元コードからどうぞ）

学校・家庭・地域の協働活動

本校区には様々な催しがあります。地域、育友会の皆様が開催してくださっている取組は、学校にとって、とてもありがたいものであります。

特に今年度の「小榊祭」は、育友会行事でありながらも、本校の6年生が、学習の発展・活動として運営に携わらせていただきました。学校・家庭協働活動という側面がありました。

このような、子供たちの成長、学校教育の充実、地域社会の活性化に貢献する「学校家庭の協働基盤活動」には、多岐にわたる大きな意義があります。

1. 協働基盤活動の主な意義

協働活動を通じて、子供たちたちは学校の外で多様な地域住民（保護者、高齢者、地域団体など）と触れ合い、以下のような能力や意識を育むことができます。

(1) コミュニケーション能力と社会性の育成

様々な世代や立場の人々と協力・交流する経験を通じて、対話力や協調性が高まります。

(2) 地域への愛着と社会貢献意識の向上

地域の文化や伝統である祭りに主体的に関わることで、地域社会への理解が深まり、愛着や貢献意識が生まれます。

(3) 多様な価値観への理解と豊かな情緒の形成

学校では得られない多様な大人や異年齢の子どもたちとの関わりが、豊かな感性や社会性を養います。

2. 学校・教職員にとっての効果

家庭や地域との協働は、学校運営や教育活動の質を高める上で重要です。

(1) 教育活動の充実

地域人材や保護者の持つ知恵や技能といった地域資源を授業や学校行事に活かすことができ、学校独自の特色ある教育活動を展開できます。

(2) 教職員の負担軽減と専門性への集中

祭りの準備や運営、学校環境の整備などを地域住民や保護者が支援することで、教員は本来の業務である授業や生徒指導により集中できるようになります。

(3) 地域との信頼関係の構築

協働作業を通じて、学校と保護者・地域との間で相互理解と協力関係が深まり、学校運営への参画や情報共有が促進されます。

3. 家庭にとっての効果

協働活動は、学校や子どものためだけでなく、地域社会そのものの基盤強化にもつながります。

(1) 地域コミュニティの活性化

祭りを核とした活動は、学校関係者や保護者だけでなく、地域住民全体のつながりや絆を強化し、地域コミュニティの活性化につながります。

(2) 地域教育力の向上

地域住民が学校教育に積極的に関わることで、地域全体で子どもを育てるという意識が高まり、地域の教育力が向上します。

(3) 家庭教育への支援

学校との連携を通じて、子育ての悩みを抱える保護者への情報提供や交流の機会となり、家庭教育の孤立を防ぐ支援にもつながります。

(4) 生きがいづくり

地域住民、特に高齢者にとっては、これまでの経験や技能を活かして子どもたちの成長を支えることが生きがいや自己実現の機会となります。

これらの意義を通じて、学校・家庭・地域が目標やビジョンを共有し、一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校」への転換が図られ、「学校を核とした地域づくり」の推進にも貢献します。

小榊地区の皆様、取組をありがとうございます！

土曜日授業／小榊祭



11月8日（土）は、たくさんの皆様にご来校いただき、誠にありがとうございました。

午前中は、小音会出場学級を励ます会並びに各学級の授業参観でした。子供たちは、日頃の学習の成果を参加いただき、励みになったようです。

そして、午後は小榊祭で大いに盛り上がりしました。今年度は、運営に6年生にも関わらせていただき、よい社会勉強になりました。

小音会について

戦後すぐに始まった小音会（長崎市小学校音楽会）は今年で79回目を迎えます。戦後の混乱期に子供たちのための音楽会を企画することで、希望を音楽に託したのかもしれませんが。長い歴史があるので、保護者の方々の中にも出演したことがある方もいらっしゃるでしょう。

時代が移り変わり、会の意味合いは変わってきましたが、出演する多くの子供たちが楽しみにしている行事であり、長崎市小学校の音楽教育の一端を担う行事でもあります。

小音会は、各学校の代表学級がブリックホールで、演奏を披露します。以前の主会場は長崎市公会堂でしたから、ステージから客席を見る景色も、音響も格段に良くなりました。

小榊小からは、4年生4クラスが出演します。合奏あり合唱ありで、バラエティに富んだ演目となっています。

私が以前出演させた児童（もう40歳を超えてますが・・・）の中には、「私の人生でステージに立ったことはあの一度だけ。ものすごく思い出に残っている」と言った児童（？）もいます。出演することが何かしらの人生経験としていつまでも残っているようです。

本校の4年生も本番に向けて、夏休み明けから練習に励んでいました。その成果を、会場で思い存分に響かせてくれるものと信じています。

音楽専科 福田 一毅